

平成28年度 基礎看護学ユニット研究活動状況

A. 構成メンバー

辻 幸代、中納美智保、和田幸子、松下直子、
山根木貴美代、堀本知春、森永聡美

B. 研究活動の概要

このユニットでは、個人研究として、看護ケアの開発や改良に寄与することを目的とした基礎的研究を行っている。テーマは、以下の通りである。

- 1) 成人女性の皮膚の角層水分量や経表皮水分蒸散量等の測定から年齢別における皮膚のバリア機能の特徴を明らかにする。
- 2) 皮膚を洗浄する際に用いる洗浄剤による化学的刺激や、洗浄に用いるタオルの材質の違いによる機械的刺激が皮膚に与える影響を明らかにする。

次にユニット全体として、新たに、シミュレーション教育のプロセスに映像を効果的に活用した教育実践の研究に取り組んでいる。今年度は、文献検討と必要な研究機器や環境の整備を行った。

研究費獲得状況

中納美智保、辻幸代：科学研究費助成事業 基盤研究(C), 「皮膚洗浄法による温熱刺激・機械的刺激・化学的刺激が皮膚バリア機能に及ぼす影響」, 2014～2016

中納美智保、辻幸代、和田幸子、山根木貴美代、松下直子、森永聡美、堀本知春：関西医療大学 基礎看護学ユニット研究, 「映像によるデブリーフィングセッションを取り入れたシミュレーション教育の実施と効果」, 2016～2017

C. 研究業績

学会発表

中納美智保、辻幸代：青年期女性と壮年期女性の角層水分量と経表皮水分蒸散量の比較, 第41回日本看護研究学会学術集会, 広島, 2016.8

中納美智保、辻幸代：洗浄剤の違いが皮膚生理機能に与える影響, 第15回日本看護技術学会学術集会, 群馬,

2016.9

中納美智保、辻幸代：皮膚洗浄時の機械的刺激が皮膚温・経表皮水分蒸散量・角層水分量に及ぼす影響, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12

D. その他

辻幸代：保健師助産師看護師実習指導者講習会講師, 和歌山県看護研修センター, 2016.7～7

中納美智保：看護研究指導, 大阪府済生会富田林病院, 2016.4.

和田幸子：日本生活支援学会誌査読, 2016.11～3

和田幸子：介護過程の展開方法, 介護職員テーマ別技術向上研修講師, 和歌山県介護普及センター, 2016, 9, 27